

①新本社ビル

いま、語る 関西人国記

大阪市住吉区の旧本社ビルを離れ、浪速区湊町の新本社に移って1年以上になります。以前は本社ビルと別に借りた建物に工事の監督連中が、さらにもう1棟の倉庫兼事務所に職人がいて、3カ所に分かれて非効率だった。交通の便もよいので、難波界隈のここに決めました。

地上14階、地下2階建てで、前の本社の15倍弱ぐらいの規模です。土地・社屋込みで40億円かかりました。本社の社員数は約190人でまだ空きフロアがありますが、これからどんどん新卒者を採用していきます。

「賞を獲得するような働きやすいオフィスにして

オンテックス会長兼CEO 小笹 公也さん(45)

おざさ・ともや 大阪市立文の里中卒。料理人見習い、プロボクサーを経て昭和54年、塗装業のエノモト入社。59年に独立し、オザサ工業を設立。63年株式会社オザサに改組し社長に就任。平成12年7月、オンテックスに社名変更し、14年1月からオンテックスグループ会長兼CEO(最高経営責任者)。大学入学資格検定に合格し、18年3月、同志社大商学部卒。大阪市出身。



くれよ」とだけ言って、各部署からメンバーを集めたプロジェクトチームに計画を検討してもらいました。電話営業用のコールセンターを設けるよう指示したぐらいで、最終案にもダメ出しはしていません。

屋上庭園やリフレッシュスペースなど、休憩する社員の家

社屋に合わせ規模拡大を

場所がよければいいという気もしますが、ね。気軽に運動できるフィットネスコーナーもあり、僕の自宅にあったパ

ので、気いつけなと思っ
てます。

3階のギャラリーには、リフォームの主力となる外壁材や屋根材など自社製品のサンプルを展示しています。防水加工は7層構造にして、紫外線にやられやすい表面を手抜きできないように色を変えたりしている差別化を図っているんですよ。

現在、オンテックスのグループの売り上げ規模が170億円なので、大きすぎる社屋かなという気もしますが、仕事は自分らでつくっていかないと。これから中古マンションを安く仕入れてリフォームし、転売する事業を手がけ、5年後ぐらいに1000億円ぐらいの売り上げにしたいと思っています。

(聞き手 栗川喜典)

いま、語る 関西人国記

②少年時代

生まれは、大阪市の阿倍野です。上に姉と兄。末っ子で、とにかく落ち着きがなく、勉強は苦手でした。小学校でも、じつと座っているのができひんタイプで、遊ぶことしか考えていなかった。宿題なんか、した記憶がない。

家の近所で野球をしたり、隣の校区の子ともと遊んだり……。同級生が夜店で他校生にからまれたときは、仕返しに出かけていったこともあります。

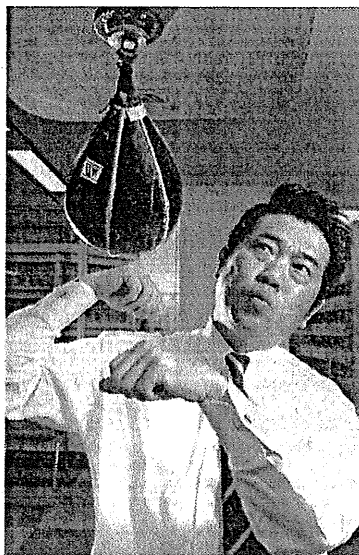
地元の文の里中学校に進学した1年生のとき、同級生たちの塾通いが楽しそうにみえて行ってみることにしたけど、やっぱり合わなかったね。

働くことは苦にならず、小学5年生のとき、新聞配達を始めました。中学3年ごろからは、いろんなアルバイトもやりました。

中学の卒業前、「手に職をつ

オンテックス会長兼CEO 小笹 公也さん(45)

体壊してボクサー断念



パンチングボールをリズムカルに叩き、プロボクサー時代の片鱗をみせる小笹さん—大阪市浪速区のオンテックス本社

けたい」と考え、料理人をしていた父親にならって結婚式場の厨房へ板前修業に行くことにしたんです。半年ぐらいして当時の料理長がよそへ移ることにになり、他の料理人も一緒に辞めたんですが、僕は知人の紹介だから残ることにした。でも、後からきた料理人連中と合えへんかって、結局、辞めました。

それで近所をうろついてたら、中学の同級生らが「ボクシングジムに行ってる」というから、連れてってくれるように頼

小学校の林間学校で、クラスメートらと写真におさまる小笹さん(最前列左)



んだんです。阿倍野区役所の近くにあったジムのぞくとおもえるようなので、塗装職人の仕事を紹介してもらい、夜にジムへ通う生活を始めました。

ところが、橋の塗り替え工事に出張した夏場のこと。クーラーボックスに水とかち割り水を入れて杓ですくって毎日がぶ飲みしていたのが悪かったらしく、腹が痛くなり、医者に腸カタルと診断された。

それから、走り込みをしても腹が痛くなる。プロテストに受かり、ジュニアフライ級でデビュー戦に出たものの、4ラウンドを戦うにはスタミナが足りない。1ラウンド目は相手を倒したのに、1差差で判定負けでした。

セコンドに体調のことを言っただけだったので、えらい怒られました。「この体では無理や」と考え、ジムを辞めました。

「塗装の仕事一本でいこう」と吹っ切れた思いになったんです。

(聞き手 栗川喜典)

いま、語る 関西人国記

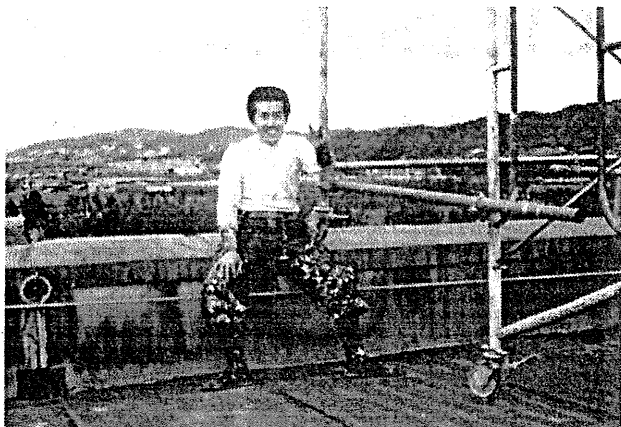
③ 塗装職人を極めて

ボクサーを断念し、塗装職人一本で取り組み始めました。親方は現場で作業の早さを競争させる人で、みな嫌がっていたけど、僕はやりがいがあった。

先輩の作業の様子を「なんで早いのかな」とみていると、コツが分かってくる。屋根や壁の材料を張ってしまえば外から見えない部分まで、きっちり塗らなくていいとかね。

高い所の作業もやりました。塗料缶を肩にかけて、工場のひさしの先にある鉄骨の上なんかにかかるんです。地上7メートルで、支えもない所ですよ。

オンテックス会長兼CEO 小笹 公也さん(45)



親方追い越し、独立

ある建物の屋根の上にはしごを立てて作業をした後、はしごから屋根に飛び降りたら、ボード材だったために「ドーン」

と破けて落ちたことがあった。周囲がスローモーションのように感じた中、視界に入った電気線用の配管に夢中でしたが

言われ、昭和59年7月に21歳で独立したんです。むちゃくちゃ自信はありましたよ。

大阪市住吉区でシャッター付きのガレージを借り、事務所にしました。初めは親方のところの孫請けが中心でしたが、そのうち、いろんな業者から「うちの仕事してくれ」と声をかけられるようになったんです。

ついて助かりました。幸い、大けがをしたことはありません。

4年後、親方を抜いて作業の早さが一番になりました。親方から「やる気あるんやったら、独立せえ」と

独立3年目の昭和62年には、最初の本社となる3階建ての事務所兼住居が完成。職人が常時20、30人いて、しょっちゅう事務所に寝泊まりしていた。

塗装業で独立したころの小笹さん

「お前に『次の現場、どこですか』といわれるのが辛い」といわれ、「ああ、仕事なくなってきたんやな」と思ったんです。よそからも仕事を頼まれていることを打ち明

け、許しを得ました。よその仕事をどんどんするようになる、こんなにもうかるのか」と驚きました。大阪では平成2年に花博(国際花と緑の博覧会)が開かれるなどバブル経済に入り、いくらでも仕事があったんです。

役所関係の仕事も手がけるようになり、63年に「株式会社オササ」として法人化し、代表取締役社長となりました。ところが、バブル経済の崩壊で厳しい時代を迎えたんです。

(聞き手 栗川喜典)

いま、語る 関西人国記

④ リフォームヘシフト

バブル経済の崩壊で建設業界もいっぺんに不景気になりました。取引先のハウスメーカーが倒産し、手形が不渡りになったりもしましたよ。

当時、賃貸マンション大手のリフォーム子会社の営業を代行していたので、契約を取ってきて工事を完了すれば、代金が振り込まれていました。ところが、その子会社から一向に代金が振り込まれなくなりました。

それで親会社のオーナー宅に出かけて、お手伝いさんに菓子折りと名刺を言づつて帰ってきましました。すぐにオーナーが事情を察して全額を回収できたんですが、そこからは縁を切りました。

オンテックス会長兼CEO 小笹 公也さん(45)

自社ブランド品が奏功



自社技術のサンプル品を手にした小笹さん。大阪府浪速区のオンテックス本社

「下請けは泣かされるばかりや」と悟り、塗料大手の特約施工店として元請けでいこうと決めました。

「なんぼ以上は歩合で」と仕事を取ってこさせました。ところが、代金を持ち逃げする奴もいて、それで新人を採用して一から教えるようにしました。僕自身も見本を持って営業に回りましたよ。

ところが、特約店の競争相手が多く、値段の勝負になってしまう。「なんとかせな」と考え、自社ブランド品の開発を目指したんです。セラミックスの骨材を混ぜた塗料で吹き付けると石材を張り付けたようになる技術があり、一般住宅向けに知り合いの業者に頼んで作ってもらいました。

これが自社品の第1号「オザキャスト」です。早速営業部隊を作り、「なんぼ以上は歩合で」と仕事を取ってこさせました。ところが、代金を持ち逃げする奴もいて、それで新人を採用して一から教えるようにしました。僕自身も見本を持って営業に回りましたよ。

戸建て住宅は見渡す限りあり、塗り替えせんあかん時期というのは、見たら分かります。最初は防水と塗装しかやっていませんでしたが、「サッシを入れ替えてえな」「屋根もふき替えて」と頼まれ、風呂やキッチン、バルコニーなどのリフォーム全般を手がけるようになりました。

(聞き手 栗川喜典)

いま、語る 関西人国記

⑤ 夢はさらに大きく

株式会社公開に向けて準備を進めていた平成17年。リフォーム詐欺が社会を騒がすようになっただけで済んだ。うちは減収などの直接的な影響は少なかったが、多くのリフォーム業者が淘汰されて市場全体が冷え込み、株式会社公開を見送りました。

「信頼できる職人を社員として育てよう」と、18年4月に大阪府和泉市に「オンテックス・テクニカルスクール」を開校しました。専門知識を学び、模型住宅で実技研修も行うため、作業の流れがつかみやすくなります。

これまでに43人が入校し、10人の職長が育ちました。これだけ職長が育てば、多くの現場に振り分けられるようになるので、下請けへの外注比率を下げ、信頼性を高めて

オンテックス会長兼CEO 小笹 公也さん(45)

社業のかたわら大学卒業



ビジネス拡大に意気込む小笹さん。背後に見えるのは5年前に釣り上げたカジキマグロの頭部。大阪市浪速区のオンテックス本社

いきたいですね。関東圏に注力し、埼玉などで塗装の提携先も増やしています。

社業のかたわら、18年3月に同志社大の商学部を卒業しました。きっかけは多角化のためにIT(情報技術)関連会社ができ、自分もIT関連の大学で学ぼうとしたからです。

息子の家庭教師に頼んで数学や古文・漢文を猛勉強し、大検(大学入学資格検定)に合格。IT事業は芳しくなかったのですが、志望先を同志社大の商学部に変え、AO入試(自由応募入試方式)で入学しました。



同志社大で学生生活を送った小笹さん

1、2回生は社業を調整して、ほぼ無欠席で通学し、3回生までに多くの単位を取ったんです。早く卒業したくて、卒業論文も3回生で指導教授に出したら、「もう一つ書け」と言われました。相撲やバスケットボール、ハンドボールなど体育会の若い連中と付き合い、よくメシにも連れて行ったね。

社内でも若手の発想を重視し、事業の多角化を進めています。インテリアなどを扱うWEBショップは開設から3年目に入り、黒字化しています。温泉付きマンションのアイデアから転化したスーパー銭湯も堺市の1号店に続き、ことし5月に貝塚市で2店目がオープンします。

14年に会長兼CEO(最高経営責任者)になりました。グループ会社の社長と区別する意味もあり、社長を置かないことにしました。

競走馬23頭の馬主になったり、大型車やクルーザーなどを所有したりするのは、社員らに夢を持たせるためです。会長室に飾っている剥製は全長2・7m、体重100kgのカジキマグロのもの。15年6月に和歌山県すさみ町の沖合で40分かけて釣り上げました。10年以上の間、3回も取り逃がしただけにうれしかったですよ。

おわり
(聞き手 栗川喜典)